

令和4年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第6号（果樹）

令和4年8月10日発表（対象期間：令和4年8月10日～9月中旬）

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
QRコードはこちら →



果樹カメムシ類（果樹全般）
に対する注意報発令中
（令和4年7月12日）



<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/tyuui-keiho.html>

お問い合わせ先
広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）

※次回の予報発表は令和4年9月中旬ごろです。

1-（1） 果樹全般 一果樹カメムシ類の発生に注意しましょうー

- 広島県では、7月12日付で県内全域を対象に果樹カメムシ類に関する注意報を発表しています。
- 県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数（5月第1半旬から8月第1半旬時点）は、福山市神辺町において過去10年で最も多く（現況：「多」）、東広島市安芸津町において過去10年との比較で2番目と同程度に多く（現況：「やや多」）なっています。残りの3地点は過去10年との比較で4番目と同程度（現況：「並」）です（表1）。

表1 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（単位：頭）				
	本年	現況	平年※1	多発年※2	多発年以外※3
東広島市安芸津町	1783.6	やや多	661.4	1432.5	331.0
福山市神辺町	464.4	多	118.5	162.8	99.5
世羅郡世羅町	366.7	並	500.9	1479.0	210.7
庄原市東城町	139.0	並	116.3	298.3	38.2
庄原市高野町	111.0	並	191.0	560.7	32.6

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す
※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成24、26、令和2年）の平均値を示す
※3 多発年以外とは、平成24年以降で、平成24、26、令和2年を除いた年の平均値を示す

- 県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの半旬毎の誘殺数は、7月中旬以降減少傾向ですが、南部の調査地点では、注意報発表年平均並で推移しています（図1）。
- 7月中旬、8月上旬に実施した被害果調査（なし、りんご）では、被害果は確認されませんでした。他の園地（りんご）では被害が報告されているので、引き続き注意してください。

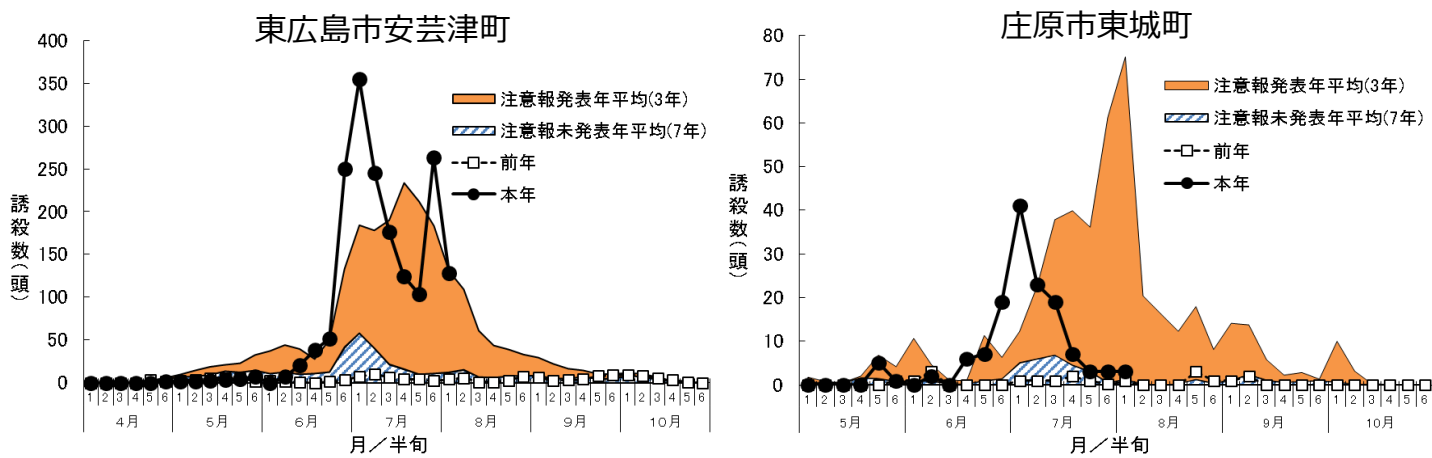


図1 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

注1：注意報発表年とは、過去10年のうち注意報を発表した平成24、26、令和2年の平均値

注2：注意報未発表年とは、過去10年のうち注意報を発表していない年の平均値

- 誘殺状況など今後の情報に注意するとともに、ほ場内をよく見回り、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施してください。
- 最新の調査データは、広島県のホームページをご覧ください。

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/yosatsu-data.html>)



図2 果樹カメムシ類
(左からチャバネアオカメムシ、
ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)



図3 なしに寄生するチャバネアオカメムシ



図4 果樹カメムシ類による被害果（りんご）



図5 果樹カメムシ類による被害果断面（りんご）

1- (2)		かんきつ病害虫の現況と予報（概要）	
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病	レモン：やや多 ネーブル：並	レモン：やや多 ネーブル：並	●発病した葉や枝は伝染源となりますので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。 ●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除しましょう。
黒点病	少	少	●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。
ミカンハダニ	並	並	●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。 ●薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。 ●8月以降に発生すると、果実にも寄生し外観品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。
ミカンサビダニ	並 (発生なし)	並	●被害を確認してからの防除では遅いため、8月の基幹防除を徹底しましょう。 ●特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意します。
ナシマルカイガラムシ	やや多	やや多	●発生が見られるほ場では、第2世代幼虫発生盛期の8月上中旬までに防除を行いましょう。
ヤノネカイガラムシ	並 (発生なし)	並	●発生が見られるほ場では、第2世代幼虫発生盛期の8月中下旬までに防除を行いましょう。
イセリアカイガラムシ	並 (発生なし)	並	

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
「やや多」 : 2～3番目と同程度
「並」 : 4～7番目と同程度
「やや少」 : 8～9番目と同程度
「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下

①かいよう病		現況	レモン：やや多 ネーブル：並	予報	レモン：やや多 ネーブル：並
予報の根拠		●巡回調査では、レモン果実で平年よりやや多い発生でした（+）。 ●巡回調査では、ネーブル果実で平年並の発生でした（±）。 ●向こう1か月の気温は高い確率が70%（±），降水量は少ない確率が50%です（-）。			
（+）：多発要因 （±）：平年並 （-）：少発要因					

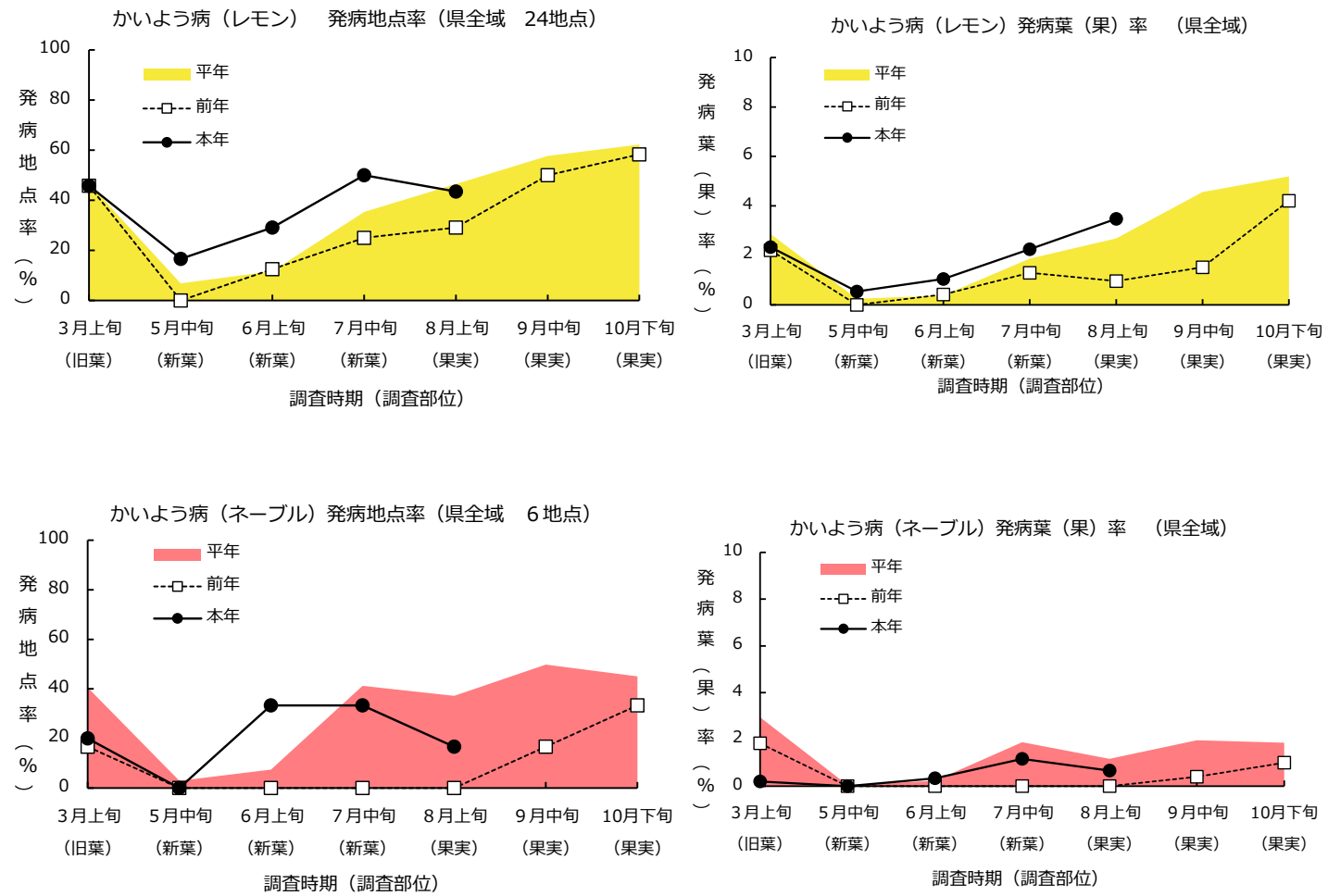
【防除上の注意事項】

- 発病した葉や枝は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除しましょう。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・マンネブ剤，マンゼブ剤は混用せずに散布し，これらの剤の散布間隔は7日以上空けます。
 - ・無機銅剤（コサイドなど）の散布を行う際には，クレフノン（希釈倍数:200倍）を加用します。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意しましょう。

ミカンハモグリガ食害痕からの夏秋梢の発病葉



【巡回調査データ】

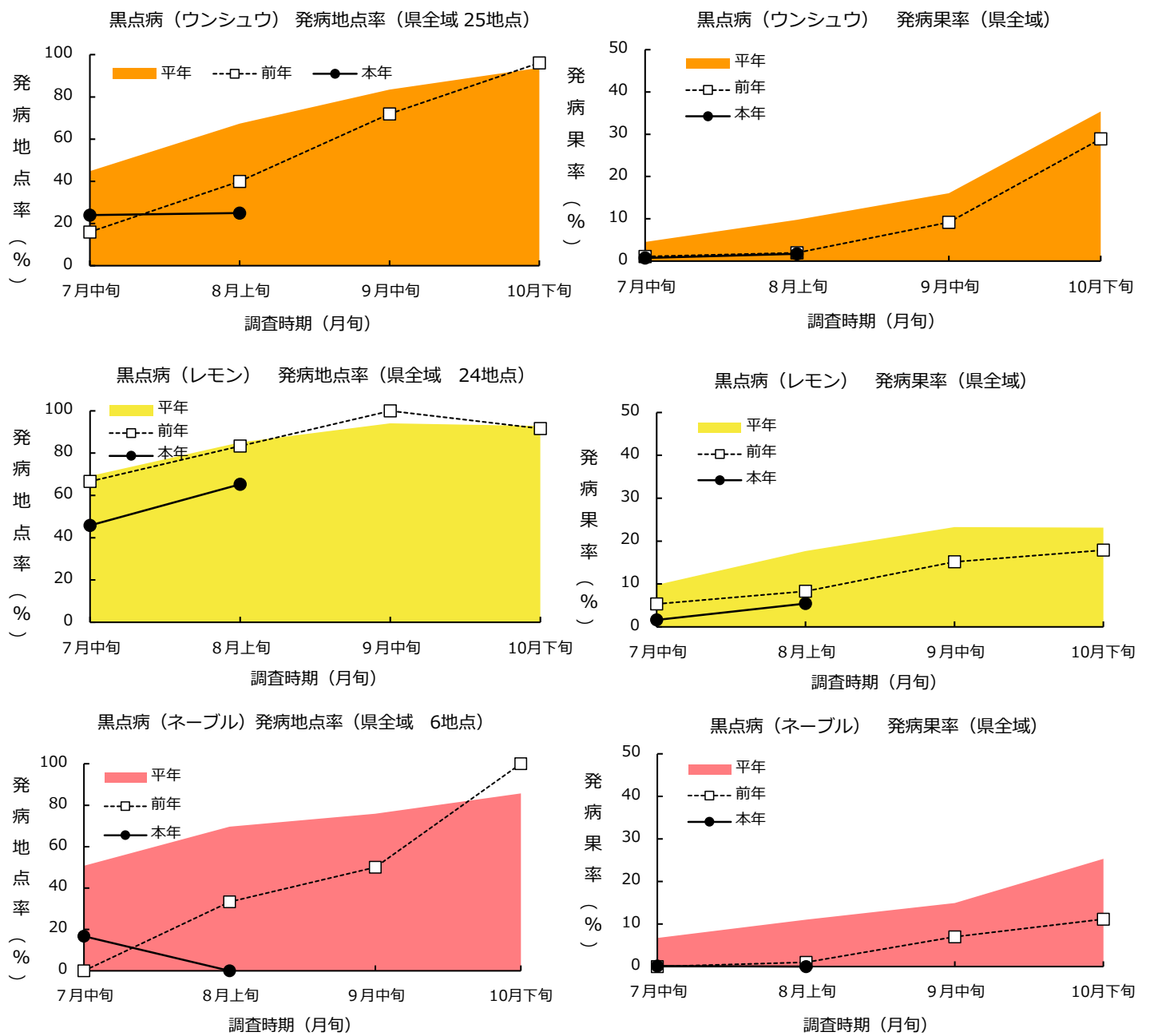


②黒点病	現況	少	予報	少
予報の根拠 (+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	●巡回調査では、ウンシュウ、レモン、ネーブルで平年より少ない発生でした（-）。 ●向こう1か月の気温は高い確率が70%（±）、降水量は少ない確率が50%です（-）。			

【防除上の注意事項】

- 伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。

【巡回調査データ】



③ミカンハダニ	現況	並	予報	並
---------	----	---	----	---

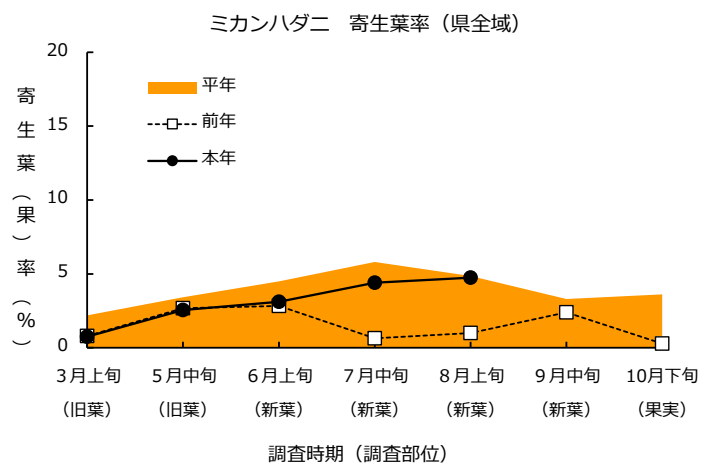
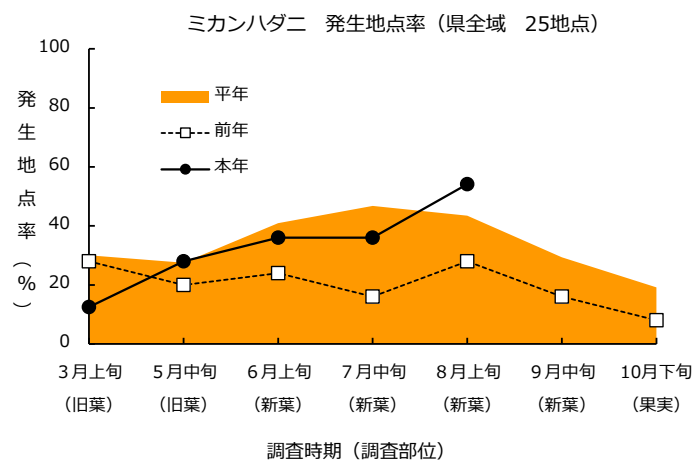
予報の根拠	●巡回調査では，平年並の発生でした（±）。
（+）:多発要因 （±）:平年並 （-）:少発要因	●向こう1か月の気温は高い確率が70%（+），降水量は少ない確率が50%です（+）。

【防除上の注意事項】

- 薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため，同系統薬剤の連用は避けましょう。
- 薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。
- 8月以降に発生すると，果実にも寄生し，外観品質を損ないますので，基幹防除を徹底しましょう。



【巡回調査データ】



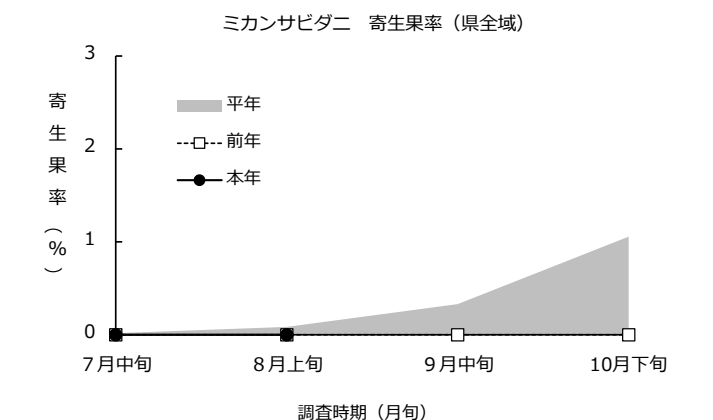
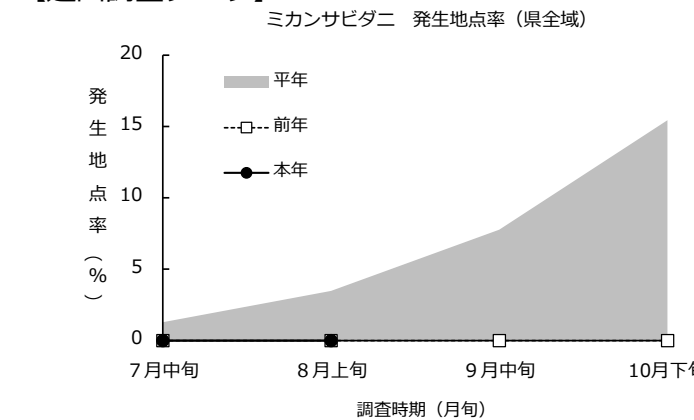
④ミカンサビダニ	現況	並	予報	並
----------	----	---	----	---

予報の根拠	●巡回調査では，発生を確認していません（-）。
（+）:多発要因 （±）:平年並 （-）:少発要因	●向こう1か月の気温は高い確率が70%（+），降水量は少ない確率が50%です（+）。

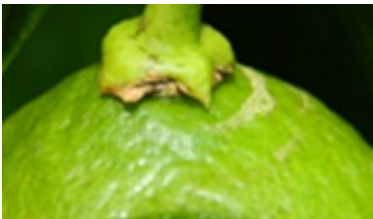
【防除上の注意事項】

- 被害を確認してからの防除では遅いため，8月の基幹防除を徹底しましょう。
- 特に，裾なり，内なりの果実での発生に注意しましょう。

【巡回調査データ】



①チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害



チャノキイロアザミウマ
(体長0.8mm程度)

- チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。
 - 第5世代成虫の発生ピークを気温から予測すると、8月13日から14日となります。**防除適期は、この7日前からピーク当日です。**
- ※ 表1を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第5世代	第6世代
平年より高い (+1℃)	8月13日	8月30日
平年並	8月13日	8月31日
平年より低い (-1℃)	8月14日	9月1日

※生口島アメダスデータに基づく

2

中国地方 1 か月予報

(広島地方気象台 8月4日発表、8月6日から9月5日までの天候見通し)

- 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 向こう 1 か月の平均気温は、高い確率が70%です。降水量は、少ない確率が50%、日照時間は、多い確率が50%です (図1)。
- 週別の気温は、1～2週目は平年より高い確率が70%、3～4週目は高い確率が50%です (図2)。

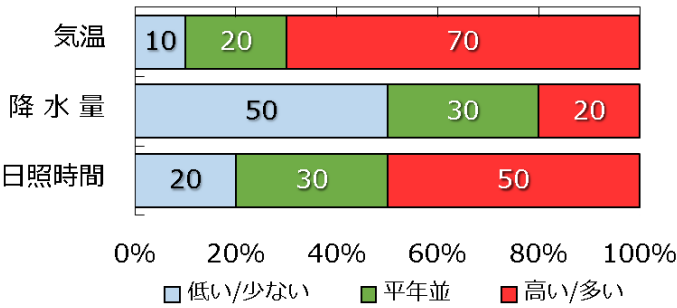


図1 向こう 1 か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

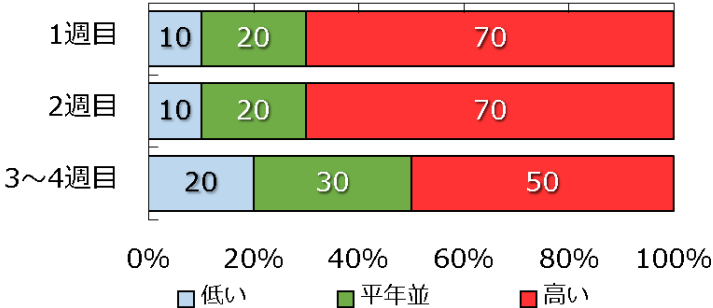


図2 向こう 1 か月の気温経過の各階級の確率 (%)

3

農薬危害防止運動について

- 広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底に取り組んでいます。